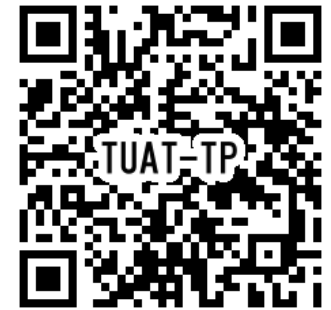
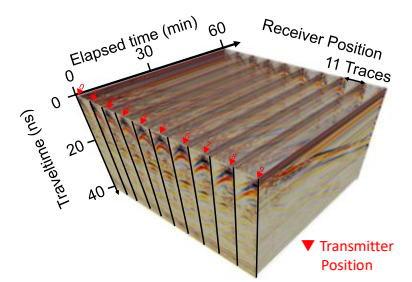
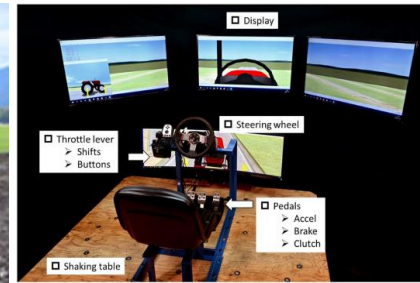
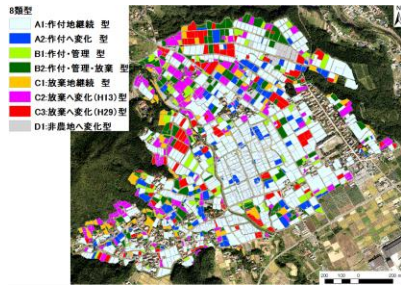


東京農工大学 大学院農学府農学専攻 食農情報工学コース 食農情報工学プログラム 大学院説明会



<http://web.tuat.ac.jp/~ageng/index.html>



説明内容

- ❖ プログラム長挨拶
- ❖ 食農情報工学プログラムの紹介
 - 概要
 - 教育研究の目的
 - 教員紹介
 - 食農情報工学プログラムのカリキュラム
 - 修了後の進路
- ❖ 入試関連の情報
 - 概要
 - 試験科目
 - 提出書類
- ❖ その他
- ❖ 質疑応答



食農情報工学プログラムの概要

本プログラムは、地域の環境保全を図りながら持続的食料生産システムや地域の環境整備を行うための高度な知識と技術に関する教育研究を行う。

具体的には、下記の項目等について、農学・工学の手法を駆使して、海外も含めた農山村地域の発展に貢献できる人材を養成する。

- 機能的で美しい**農村**の創成と整備
- 地域の**土地利用**及び**水資源**の効率的かつ**環境保全**的な利用法
- 合理的で安全な**利水施設**の設計・施工
- **農作業システム**・**機械施設**の最適な**設計**とその**評価**
- **情報センシング技術**や**モデル予測**を用いた農業生産システムの構築
- **環境負荷**が少なく**持続的な生物資源**の生産や**循環利用**

食農情報工学プログラムの教育研究の目的

農学と工学の手法を駆使して、海外も含めた、農山村地域の発展に貢献し、持続的食料生産システムや地域環境整備を行う農業環境工学分野において卓越した能力を有する、広い視野に立つ専門家及び研究者を養成する。
この目的を達するため革新的学術研究を併せて実施する

教育研究分野

地域環境工学

都市・農村地域における生産環境、自然環境、生活環境の調和を図り、また、農業者の生活環境整備に資する農村計画、住環境整備について教育研究を行う

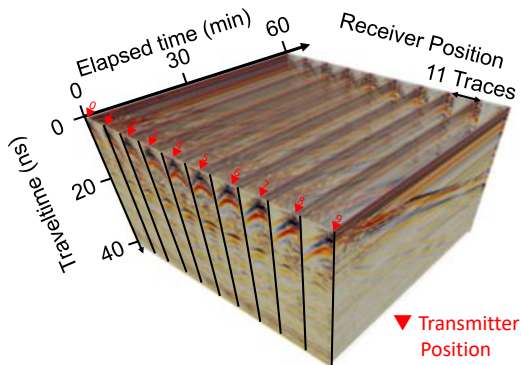
生物生産工学

生産性向上と環境保全の問題を同時に解決しうる食糧生産供給システムの構築を目指す知識と技術に関する教育研究を行う

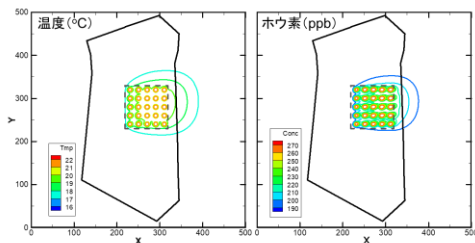
地域環境工学教育研究分野

齋藤広隆

物質移動解析に基づく土壌環境の保全・再生・持続的な利用に関する研究および工学的解析による地盤の安定や防災に関する研究



地中レーダによる浸潤過程の可視化



地中熱利用時の地温・地下水水質変化の予測

島本由麻

AE法を用いた構造材料の損傷度評価および地域資源を有効活用した材料開発に関する研究



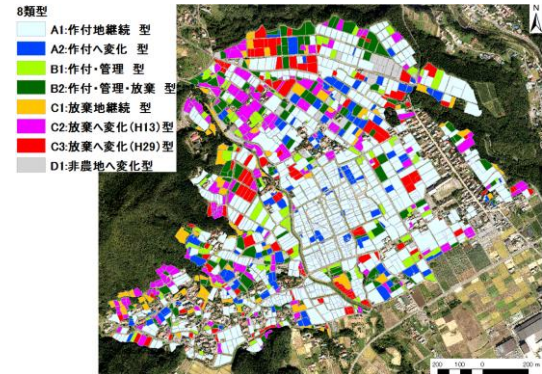
AE法を用いたコンクリートの破壊挙動評価



農業副産物を活用した環境親和型材料の開発

中島正裕

中山間地域の活性化と地域資源の持続的管理を目的とした土地利用計画, コミュニティ計画、意志決定支援に関する研究



農地利用の変遷分析



伝統行事の継承に向けた世代融合型ワークショップ

地域環境工学教育研究分野

西脇淳子

山下 恵

土壌物理特性に基づく土壌圏での環境影響物質（水、温室効果ガス、化学物質など）の動態把握をもとにした健全な土壌環境維持を目指す研究

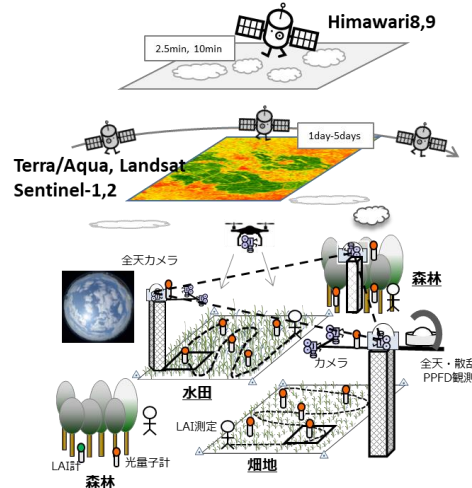


土壌透水性変化測定

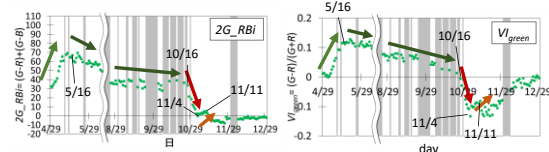


温室効果ガス放出量
土中ガス生成量測定

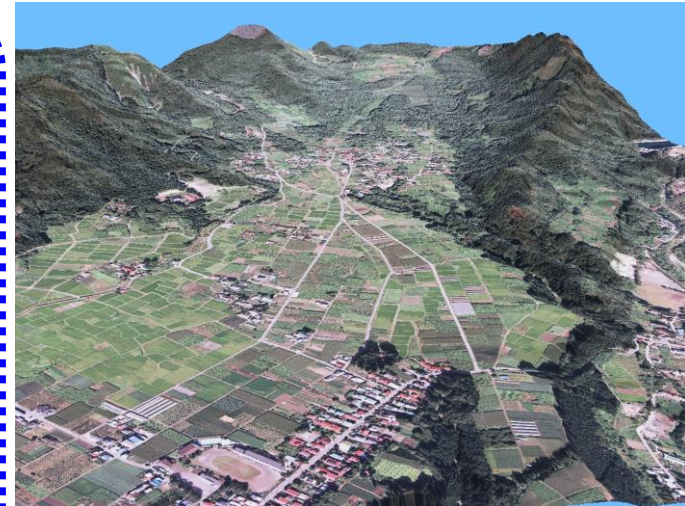
空間情報技術を用いたマルチスケールでの環境モニタリング手法の開発および生態系評価に関する研究



マルチスケール地域環境モニタリング



フェノロジー解析



生物生産工学教育研究分野

帖佐 直

持続的生産のための生産環境の計測制御技術および農産物の品質評価などに関連した研究



踏圧による抑草技術



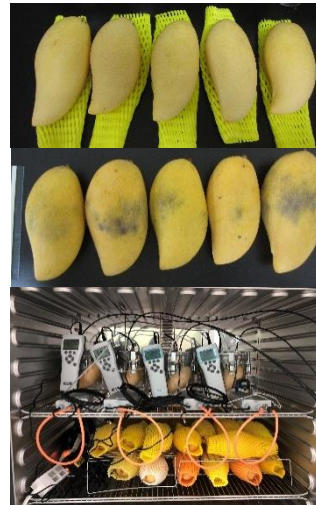
小型農業ロボット

安永円理子

食の安全や食品ロス削減に貢献するための農産物の品質評価技術や流通環境の最適化に関する研究



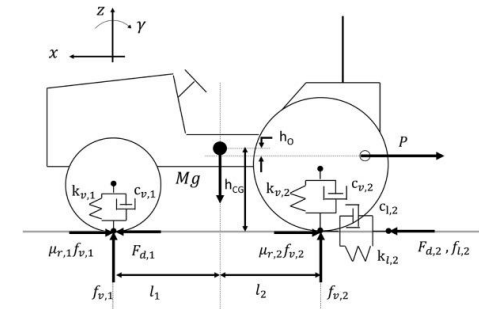
流通環境モニタリング



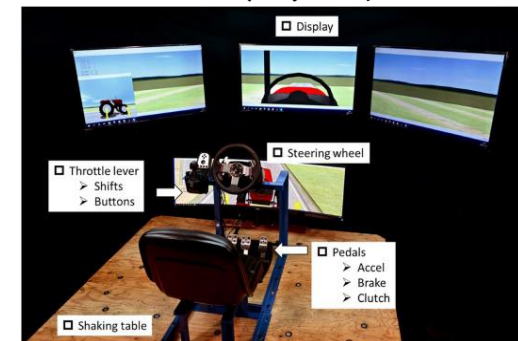
収穫後農産物の品質評価

渡辺将央

数値シミュレーションとデータアナリティクスを基盤技術とした食料生産システムの安全性・信頼性、自動化・知能化に関する研究



車両ダイナミクス
のモデリング



トラクタ・ドライブ
シミュレータ

食農情報工学プログラムのカリキュラム

農業生産・自然環境・農作業・地域生活における諸現象の構造や機能を解明するための**革新的な計測手法**、**データ解析**及び**将来予測手法**に関する高度な専門技術を修得できるコース。人類の生存に関わる食料問題を基軸とし、**地域レベルから地球規模**という各スケールで抱える**環境保全**や**農業・環境資源**の有効活用などの**実践的課題の解決**に挑むことのできる人材を養成。

修了要件：合計30単位以上

- 共通基礎・共通演習・専門科目あわせて18単位以上
 - ✓ 共通基礎4単位以上
 - ✓ 共通演習2単位以上
 - ✓ 専門科目4単位以上
- 論文関連科目あわせて12単位

食農情報工学プログラムの科目例

■ 共通基礎科目4単位以上

- ✓ 自コースの概論1単位以上
- ✓ 他コースの概論1単位以上
- ✓ 21世紀農学特論(1単位)

■ 共通演習科目2単位以上

- ✓ 国際研究プレゼンテーション演習 I (1単位)

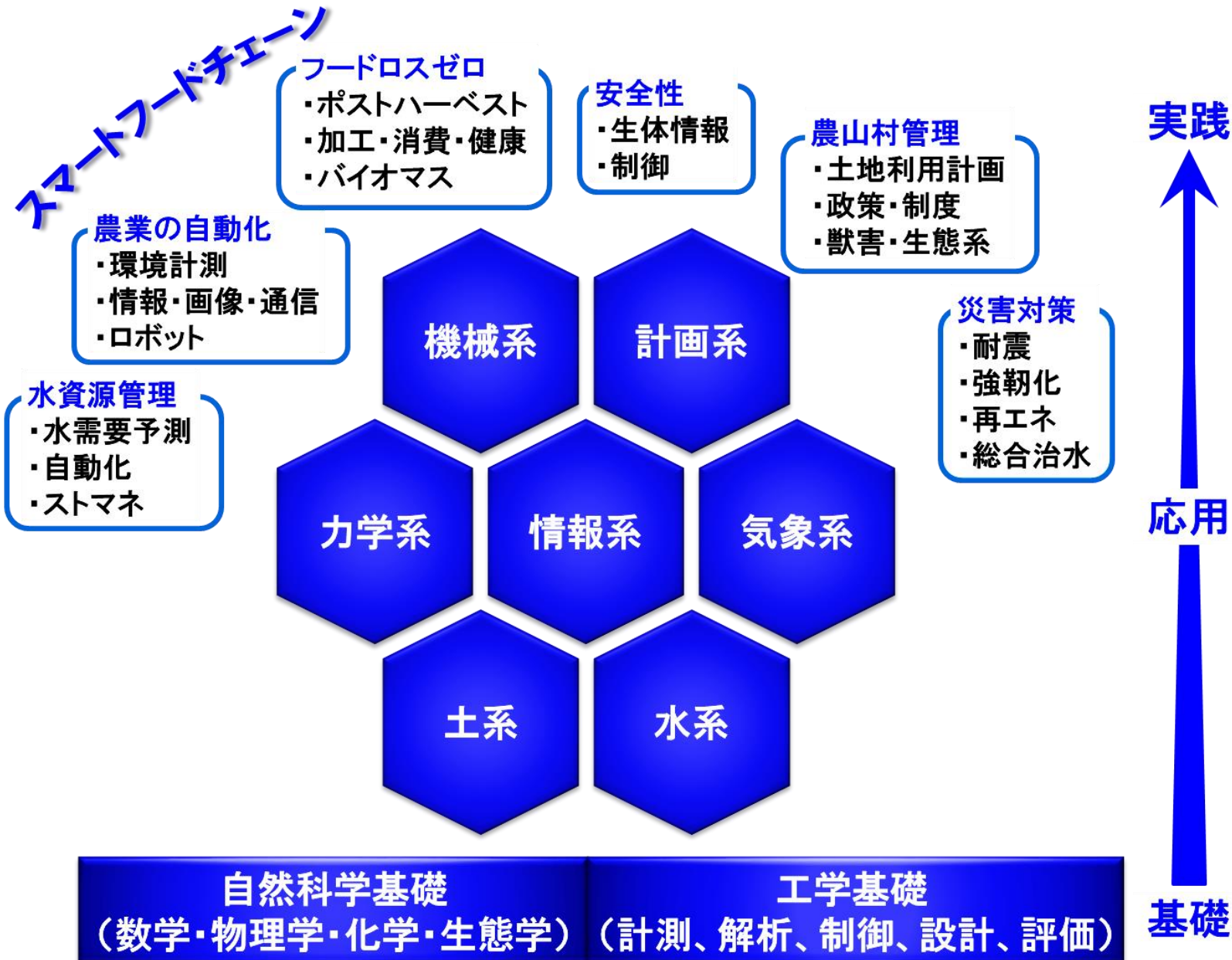
■ 専門科目4単位以上

- ✓ 自コースの科目2単位以上
 - 地域環境工学 I・II・III
 - 生物生産工学 I・II・III

■ 論文関連科目あわせて12単位

- 特別研究[A群(4月入学)またはB群(10月入学)]:6単位
- 農学特別演習 I :4単位
- 論文レビュー特別演習 I :2単位

食農情報工学プログラムの教育と研究



修了後の進路(職種)

就職先(業種)	仕事の内容
大学院博士後期課程	農業環境工学分野の研究
国家公務員, 地方公務員, 独法職員	国や地方の行政, 公共事業の企画・設計・ 施行管理, 農業技術の普及, 農業者の教育, 農業技術の調査・研究
土木建設会社, コンサルタント会社	地域計画・農業基盤整備の企画・立案, 建造物や道路の設計・施工
機械・食品製造会社	機械の研究開発, 機械の設計・製造技術, 製造プロセスの管理
ソフトウェア会社	ソフトウェアの企画, プログラムの作成
NPO・財団	非営利業務の調査, 企画・運営

修了後の進路(就職先)

業種	就職先
公務員	農水省, 経産省, 国交省, 文科省, 東京都, 千葉県, 神奈川県, 埼玉県, 長野県, 新潟県, 静岡県, 横浜市
独立行政 法人	農業・食品産業技術総合研究機構, 水資源機構, 土木研究所, 森林研究・整備機構
土木・建設	鹿島建設, 清水建設
機械・食品	クボタ, イセキ, ヤンマー, 月島機械, 森永乳業, 味の素ゼネラルフーズ
建設コンサル タント	日本工営, パシフィックコンサルタンツ, 建設技術研究所, NTCコンサルタンツ, 内外エンジニアリング, 三祐コンサルタンツ, パスコ, 構造計画研究所
ソフトウェア	NTTデータ, 日立KEシステムズ
財団・NPO	中央競馬会
その他	農林中央金庫

入試関連の情報(概要)

❖ 出願期間

- 窓口受付: 2024年7月24日(水)~7月26日(金)午後3時まで
で ※受付時間は募集要項を確認すること。
- 郵送受付: 2024年7月8日(月)~7月26日(金)午後3時必着
※出願期間後に本学に到着した場合でも2024年7月24日(水)以前の
日本国内発信局消印のある簡易書留の郵便に限り受理。

❖ 試験日

- 筆記試験: 2024年8月29日(木)
- 口述試験: 2024年8月30日(金)

❖ 募集人数: 10人

❖ 合格発表

- 2024年9月6日(金)午前10時

❖ 入学手続き

- 2024年10月入学者: 2025年9月20日(金)
- 2025年4月入学者: 2025年3月17日(月)

入試関連の情報(試験科目)

筆記試験		口述試験
外国語	専門科目	専門科目
外部試験スコアシートの提出	下表から3科目を解答時に選択	志望教育研究分野についての適性, その他。

専門科目

材料・構造力学, 農業・農産機械学,
土質力学, 土壌物理学, 農村計画学,
水理学, かんがい排水工学, 空間情報学

入試関連の情報(提出書類)

提出書類等	備考
入学志願票 写真票 受験票 入学検定料納付確認票	本学所定用紙を使用。 志望教育研究分野 志望する研究主指導教員 →指導を希望する教員と相談
履歴書	本学所定用紙を使用
志望理由書	本学所定用紙を使用
成績証明書	出身(在学)大学等が作成したもの
卒業(見込)証明書	出身(在学)大学等が作成したもの
検定料	本学所定の入学検定料払込用紙で払込
宛名票	本学所定用紙を使用
返信用封筒	受験票返送用として住所, 氏名を明記し, 郵便切手354 円を貼り付けたもの

※詳細は、募集要項を参照。不明な点は問い合わせ

その他

❖ 先進学際科学府(設置構想中)の紹介

❖ 大学院連合農学研究科

➤ 学生支援の紹介 (FL-SPRING、FL-Boost)



FL-SPRING 次世代研究者挑戦的研究プログラム『FLOuRISHフェローシップ事業』

FL-BOST 次世代AI人材育成プログラム 『尖端研究により未来社会を創生する次世代 AI 博士人材育成プログラム』

本学理念	<p>『使命志向型教育研究-美しい地球持続のための全学的努力-』 <i>"Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth: MORE SENCE"</i></p>					
事業目的	<p>FL-SPRING 21世紀の人類が直面している地球規模の課題を解決し、持続可能な開発目標(SDGs)の達成にも寄与できるよう、農学と工学の横断的な視野を持ち、その他の研究分野と連携して研究・技術開発を牽引する人材を育成する</p> <p>FL-BOOST 「高度な専門性」と「学際的な視点」を持ち、最新の「AI・数理・データサイエンス技術」の開発・応用・実践を担うグローバルな次世代AI博士人材を育成する</p>					
事業内容	研究奨励費の支援		国内外研究留学の支援		学際的尖端研究力の促進プログラムの提供	
<p>FL-SPRING 18.5万円/月 (222万円/年)</p> <p>FL-BOOST 22.5万円/月 (270万円/年)</p>		<p>FL-SPRING</p> <ul style="list-style-type: none"> 上限80万円/支援期間中 海外での留学・ラボローテーション・インターンシップの何れかが必須 		<p>トランスファラブルスキル</p> <p>アントレプレナーチャレンジ 学際融合合宿 グラントプロポーザルセミナー他</p> <p>次世代AIサロン</p> <ul style="list-style-type: none"> BOOST独自プログラム 国内外から広く AI 関連研究者を招聘し、定期的なセミナーや勉強会を実施 		
<p>研究費の配分</p> <p>FL-SPRING 20万円/年</p> <p>FL-BOOST 120万円/年</p> 		<p>FL-BOOST</p> <ul style="list-style-type: none"> 支給される研究費(左記)から支出 海外に限らず国内外での研究留学・ラボローテーションの何れかが必須 		<p>多様なキャリア開発</p> <ul style="list-style-type: none"> Diversity & Career セミナー メンタリング デザイン思考 Doctor's Cafe他 <p>(備考) 「トランスファラブルスキル」、及び「多様なキャリア開発」のプログラムは、FL-SPRINGとFL-BOOSTで共通して提供</p>		

質疑応答

